

平成 29 年 東北大学前期日程試験【国 語】問題分析

1 今年（H29）の傾向

総評

全体として突出した難しさがあるわけでもなく、標準的な難度。いわゆる「王道」。したがって、ちょっとしたセンターの失敗なら取り返せる、上手に学力を問う問題。例年通りの良問と言える。

現代文

評論は極めてオーソドックスな問題。本文の対比構造を解答するなかで掴めれば手堅く得点できる。本文のどこを踏まえて解答を作ればよいかもつかみやすく、受験生としては比較的まとめに苦労はしなかつただろう。小説は話としては読みやすいが、ひらがなだらけの表記に読みづらさを感じるかもしれない。また、やや聞かんとしていることが見えにくい問題もある。しかし、おそらく「何も書けない」という問題はなく、部分点は取りやすい良問であると考えられる。

合否ライン（予想）※他の教科が合格ラインをとったときの得点（％）予想

文学部	55%	法学部	60%
教育学部	55%	経済学部	55%

来年受験する生徒へのアドバイス

本文に難解な言葉が用いられていないぶん、解答に過度な完成度を求めるとかえって痛い目を見る。自分が書けることを相手にも理解できる表現でまとめようとする心がけが肝要である。

古文

『玉勝間』は江戸期を代表する知識人として有名な本居宣長の著作。比較的平易な言葉遣いではあるが、「語源」「用例」といった訳語が出てこないと説明が困難であり、受験生にとっては高難度に感じたかもしれない。また、傍線部の直前・直後の情報ではなく、本文全体の趣旨を踏まえなければならない問題もあり、安易な受験テクニックに染まった受験生には解けない工夫が巧妙に施されているとも言える。

合否ライン（予想）※他の教科が合格ラインをとったときの得点（％）予想

文学部	55%	法学部	60%
教育学部	55%	経済学部	55%

来年受験する生徒へのアドバイス

物語の大意が理解できれば事足りる、という浅はかな考えでは解答できず、本文の「論理」をつかみ、それを正確に説明する力が問われている。受験参考書による簡便なテクニックでは対応できない。読み、考え、書く訓練をより多く積むことを求めたい。

漢文

大意が取りやすいという点では易化。まとめにくいという点では難化。少なくとも基本的な知識を問う問題では確実に得点したいが、読解および解答に至っては、自分を為政者や人民の立場に置き換えてものを考える思考訓練の多寡がものを言うだろう。

合否ライン（予想）※他の教科が合格ラインをとったときの得点（％）予想

文学部	55%	法学部	60%
教育学部	55%	経済学部	55%

来年受験する生徒へのアドバイス

ストーリー性のある文章には強く、論理性の強い文章には弱い傾向が受験生にしばしば見られる。思想系の文章に触れる機会を増やすことが重要である。